

総説/Invited Commentary/ Editorial/ Correspondence/ Reply to Correspondence

1. Nitta T, Ishii Y, Sakamoto S. Surgical Treatment of Atrial Fibrillation: State of the Art, 2012. *Journal of Arrhythmia*. 2012;28:338-346.
2. Nitta T, Ishii Y, Sakamoto S. Surgery for atrial fibrillation: recent progress and future perspective. *Gen Thorac Cardiovasc Surg*. 2012;60:13-20.
3. Nitta T. Devices for Resident Physicians: Transvenous Lead Removal. *Journal of Arrhythmia*. 2011;27:350-2.
4. Nitta T. Surgery for atrial fibrillation: a worldwide review. *Semin Thorac Cardiovasc Surg*. 2007;19:3-8.
5. Nitta T. Surgery for atrial fibrillation. *Ann Thorac Cardiovasc Surg*. 2005;11:154-8.
6. Nitta T, Yamate N, Tanaka S, Ikeshita M, Asano T, Matsuyama Y, Iedokoro Y, Shoji T. The effect of transatrial chemical ablation with Lugol's solution on ventricular vulnerability. *Cardiac arrhythmias: Current topics*. 1986:448-51.
7. 新田 隆. 不整脈の外科治療, 東京都医師会雑誌, 2011;64;17-24
8. 新田 隆. 器質的心疾患に伴う心室頻拍に対する外科的アブレーション, Heart View, 2010;14;123-127
9. 新田 隆. 心房細動の治療ガイドラインをめぐって:心房細動の外科治療, ICUとCCU, 2009;33;279-286
10. 新田 隆. 心房細動とアミオダロン:心臓血管手術後の不整脈予防の観点から, Progress in Medicine, 2009;29;718-721
11. 新田 隆, 石井庸介, 坂本俊一郎. 最近の不整脈外科治療, Annual Review 2009 循環器, 2009;216-223
12. 新田 隆. 進歩する心房細動手術, 進歩する心臓研究 -Tokyo Heart Journal-, 2007;27;30-36
13. 新田 隆. 特集 新しい展開 どう治すか? 不整脈治療:不整脈の外科治療, Circulation up-to-date, 2007;2;187-194
14. 新田 隆, 藤井正大, 小笠原英継, 石井庸介, 田中茂夫. 心房細動に対する新しい手術:Radial Approach, Therapeutic Research 別冊(赤木循環器フォーラム 第11回~第20回講演論文集), 2007; 49-55
15. 新田 隆. 心房細動外科治療の現況と将来の展望, Medical Torch, 2006;2;22-23
16. 新田 隆. 不整脈の外科治療, 臨床と研究, 2006;83;1459-85
17. 新田 隆. 心房細動の外科治療, HEART nursing, 2005;18;843-850
18. 新田 隆. 心房細動-治療の悩みとコツ:外科治療の展望, Heart View, 2005;9;484-9
19. 新田 隆. 特集II:第68回日本循環器学会学術集会 1. 心房細動-基礎から臨床へ:心房細動のマッピングと外科治療, 循環器専門医, 2005;13;23-31
20. 新田 隆. 外科治療 臨床麻酔 2004;28;1043-51
21. 新田 隆. 心房細動の治療 だより(練馬区医師会雑誌) 2004;10-19
22. 新田 隆. 植込み型除細動器(ICD)の現状と問題点, Clinical Engineering, 2004;15;929-38
23. 新田 隆. 心臓突然死一次予防における ICD の役割, 進歩する心臓研究 -Tokyo Heart Journal-, 2004;24;25-29
24. 新田 隆. 左室形成術における不整脈治療戦略, Cardiovascular Med-Surg. 2003;5;187-94
25. 新田 隆. 心房細動手術の適応と方法, Heart View. 2003;7;510-6
26. 新田 隆, 田中茂夫. 植込み型除細動器の適応と実際 Mebio. 2003;20;103-15
27. 新田 隆. 心房細動の外科治療とその将来の展望 メディカル朝日 2002;31;49-51

28. 新田 隆. 臨床医のために:心房細動の外科治療 日本医科大学雑誌 2002;69;294-9
29. 新田 隆. 話題:心不全に対する両心室ペーシング療法 日本医科大学雑誌 2002;69;314-5
30. 新田 隆. 外科的治療の意義と現状 臨床医 2002;28;725-7
31. 新田 隆. 心房細動の現況と将来の展望 循環制御 2002;23;132-6
32. 新田 隆. 心房細動のメカニズム—術中マッピング所見からの考察, Rhythm, 2002;1;1 月 4 日
33. 新田 隆, 田中茂夫. ICD はどこまで進化するか—その現状と将来— Progress in Medicine 2001;21;1407-11
34. 新田 隆. Expert interview:心房細動手術の最近の進歩と将来の展望 リズム&ハート 2001;32;2-3
35. 新田 隆. 心房細動の外科治療 循環器科 2001;49;164-70
36. 新田 隆. 医療機器の安全な使用法のキーポイント—ペースメーカー・除細動器—, ME 技術講習—最新の ME 機器をやさしく使おう— 2001;22-28
37. 新田 隆, 田中茂夫. 特集:ICD の適応を考える わが国における ICD 適応の現状 Heart View 2000;4;64-69
38. 新田 隆. 特集:不整脈をどうするか—薬物療法と非薬物療法—心房細動の外科治療 今月の治療 2000;8;165-72
39. 新田 隆. 心房細動の外科的治療 治療レビュー 2000;8;165-72
40. 新田 隆. 心房細動手術の最近の進歩と将来の展望 集中治療 2000;12;563-9
41. 新田 隆. 特集:重症不整脈における救命治療:重症不整脈の外科治療 ハートナーシング 1999;12;882-6
42. 新田 隆. 不整脈外科の現況と将来の展望 不整脈 1999;15;6-16
43. 新田 隆, 田中茂夫. 学術情報:心房細動に対する外科治療 東京都医師会雑誌 1999;52;6-10
44. 新田 隆. 海外研究紹介:心房細動に対する心房放射状切開術 日本医科大学雑誌 1997;64;491-2
45. 新田 隆, 田中茂夫. 特集 不整脈—診療の進歩—外科治療(3)心室頻拍、心室細動 臨床科学 1995;31;75-82
46. 新田 隆, 田中茂夫. 特集 不整脈の治療:植込み型除細動器 治療の最前線 1995;2;317-21
47. 師田哲郎. 山崎論文(外科的治療を行った右鎖骨下動脈瘤の 2 例)に対する Editorial Comment. 心臓 46, 627-628, 2014
48. 師田哲郎. 大動脈外科—最近の進歩とこれからの展望. 日医大医会誌 9, 240, 2013
49. 師田哲郎. まい・てくにつく:大動脈基部置換術における冠状動脈再建法. 胸部外科 66, 1050, 2013
50. 師田哲郎. 学会総会通信 座長のまとめ:パネルディスカッション 1 大動脈瘤・大動脈解離診療ガイドライン改訂のポイント. 脈管学会 Newsletter 4, 7-8, 2013
51. 師田哲郎. 討論:新しい自作ステントグラフト内挿法による急性大動脈解離に対する全弓部置換術. 胸部外科 65, 525-526, 2012
52. 師田哲郎, 小野稔. Marfan 症候群における治療 Update. Heart View 14: 1042-1045, 2010
53. 師田哲郎. 日常診療に使えるガイドライン特集:大動脈瘤. 総合臨床 59 増刊号, 960-965, 2010
54. 師田哲郎. 血管が裂ける大動脈解離(談話形式). 日経 BP 2 月 8 日号, 66, 2010
55. 師田哲郎. 急性大動脈解離の集学的アプローチ:IMH および PAU の診断, 治療. 循環器科 66, 516-522, 2009
56. 師田哲郎. 討論:急性 A 型大動脈解離の基部病変に対する外科治療—partial remodeling 法を含めて. 胸部外科 62, 1030-1031, 2009

57. 師田哲郎, 高本眞一. ガイドライン up to date 大動脈瘤・大動脈解離診療ガイドライン(2006年改訂版). 成人病と生活習慣病 39, 646-649, 2009
58. 師田哲郎. 特集「感染性心臓・大動脈疾患の治療」人工血管感染に対するホモグラフト置換. 日本外科学会雑誌 110, 17-20, 2009
59. 師田哲郎. 特集「血管疾患 up to date」マルファン症候群. CARDIAC PRACTICE 19, 77-80, 2008
60. 師田哲郎. まい・てくにつく:Stanford B型解離に対する近位側吻合のアプローチと補助手段. 胸部外科 61, 553, 2008
61. 師田哲郎, 高本眞一. 大動脈解離の論点:大動脈瘤・大動脈解離診療ガイドライン(2006年)を踏まえて 7. 手術手技の選択. 脈管学 48, 37-42, 2008
62. 師田哲郎, 高本眞一. 急性大動脈解離の治療戦略. Angiology Frontier 6, 320-326, 2007
63. 師田哲郎. 大動脈解離. Vascular Lab 4, 95-100, 2007
64. 師田哲郎. DATAで読み解く内科疾患:動脈瘤. 総合臨床 56増刊号, 924-932, 2007
65. 師田哲郎, 高本眞一. 急性大動脈解離. クリニシアン 557, 305-313, 2007
66. 師田哲郎, 高本眞一. 動脈解離. 成人病と生活習慣病 36, 990-994, 2006
67. 師田哲郎, 高本眞一. EBMに基づく動脈硬化性疾患の外科的治療とその成績—大動脈瘤・大動脈解離. 循環器科 59/Suppl. 3 特別増刊号“動脈硬化のすべて”, 515-526, 2006.
68. 師田哲郎. マルファン症候群の心臓に関するフォローのポイントは何か? 小児内科 特集 小児循環器疾患診療—そこが知りたい Q&A. 小児内科 37, 1635-1638, 2005
69. 師田哲郎. 特集:心血管エマージェンシー 胸痛—急性大動脈解離. 内科 96, 451-455, 2005
70. 師田哲郎, 高本眞一. 大動脈瘤の診断基準・病型分類・重症度. 内科 95, 1355-1359, 2005
71. 師田哲郎. 大動脈手術後の再発率. 日本医事新報 4215, 109-110, 2005
72. 師田哲郎, 高本眞一. 緊急治療の最前線—急性A型大動脈解離. 胸部外科 57, 607-614, 2004
73. 師田哲郎, 高本眞一. フローチャートでみる生活習慣病診療指針2—大動脈解離・大動脈瘤. 成人病と生活習慣病 34, 226-229, 2004
74. 師田哲郎, 高本眞一. プライマリーケアのコツ—大動脈瘤、大動脈解離. 臨床医 30増刊号, 976-978, 2004
75. 師田哲郎, 高本眞一. 高齢者大動脈瘤の診断と手術適応. 総合臨床 52: 3071-3073, 2003
76. 師田哲郎, 高本眞一. 弓部置換を必要とする大動脈解離. Heart View 5: 1348-1353, 2001
77. 師田哲郎, 高本眞一. 胸部大動脈瘤の診療. 外科治療 83: 729-730, 2000
78. 師田哲郎, 高本眞一. 大血管手術と脳保護—弓部大動脈手術を中心に. オペナーシング 10: 632-636, 1995
79. Ishii Y. Is pulmonary vein isolation effective for permanent atrial fibrillation? (editorial) Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2012; 60: 68-70
80. 石井庸介. ベースメカアレルギーに対し, ジェネレーターを Polytetrafluethylene で被覆して植え込みを施行し, 7年後に電池交換を行った1例 に対する editorial comment. 心臓. 2014; 46 (4) 476-477.
81. 石井庸介. 心臓外科手術後の心房細動に対する amiodarone の予防的投与. 討論2. 胸部外科. 2011; 64(3): 179-186.
82. 石井庸介, 坂本俊一郎, 新田 隆. マッピングに基づく心房細動手術. 日本心臓血管外科学会雑誌. 2010; 39(5): vi-viii.
83. 石井庸介, 清野精彦. 心臓手術後の胸水. 呼吸器内科. 2010; 17(4): 393-397

84. 石井庸介, 新田 隆. 肺静脈隔離術は有効な術式か? 特集 心房細動に対する外科治療. 胸部外科. 2010; 63(4): 279-283.
85. 石井庸介, 新田 隆. 外科用アブレーションデバイスを用いた新しい心房細動手術. 最新医学. 2009; 64(8): 92-97
86. 石井庸介, 新田 隆. 不整脈手術用 アブレーションデバイス. 特集 胸部外科手術を支えるテクノロジー. 胸部外科. 2009; 62(8): 682-687.
87. 石井庸介, 藤井 正大, 新田 隆. 心臓手術後心房性頻拍の発生頻度, 機序および予防: 心臓外科医の視点から. Progress in Medicine. 2007; 27:2740-2742.
88. 石井庸介, 新田 隆. 心房細動の外科治療—その進歩と適応—. Progress in Medicine. 2007; 27(11):2511-2517.
89. Ishii Y, Nitta T. Atrial fibrillation surgery for patients with rheumatic valve disease. *J Interv Card Electrophysiol* 2007;20(3):109-112.
90. 石井庸介, 大森裕也, 新田 隆. 孤立性心房細動に対する外科治療の現況と将来の展望. 心臓. 日本心臓財団. 2007;39(4):355-59
91. 石井庸介. 冠動脈バイパス術に対する小口径人工血管の開発. 日本医科大学医学会雑誌. 2007;3(3):151
92. 石井庸介, 新田 隆. 心房細動の病態と治療. 外科治療. *Medical technology*. 医歯薬出版. 2006.
93. 石井庸介, 新田 隆. 心房細動手術の現状と将来. *循環器科*. 2005;58:73-77.
94. 石井庸介, 新田 隆. 集中治療における心房細動の臨床 外科治療. *ICUとCCU*. 2001;28:599-606.
95. 石井庸介, 新田 隆, 田中茂夫. 心房細動の外科治療. *循環器科*. 2001;50:148-155.
96. 大森裕也. 松山論文に対する Editorial Comment. 心臓 vol.45 (2013) p1160
97. 大森裕也, 石井庸介, 新田 隆. 孤立性心房細動における電気生理学的検討. 日本医科大学医学雑誌 3 巻 3 号 p120-121 (2007.06)
98. 大森裕也. レーザ医療の最先端を探る 2)エキシマレーザーの循環器領域への応用. 光アライアンス 22 巻 12 号 p1-4 (2011.12)
99. 大森裕也, 新田 隆. 心房細動 up-to-date 心房細動手術の進歩. *Cardiovascular Med-Surg* Vol.7 No.4 2005. 11
100. 大森裕也, 新田 隆. ペースメーカー・ICD に伴うリスク管理. 呼吸と循環 56 巻 2 号 p159-164 (2008. 02)
101. 大森裕也, 新田 隆. 心臓リズムマネージメントのための新技術 7. デバイスの合併症. *Heart View* Vol.14 No.4, 2010 p56-63
102. 大森裕也. ナースのための心臓大血管手術 周術期管理のポイント(ハートナーシング春季増刊). メディカ出版 2012 年 4 月出版. 第二部 5章 2 デバイス植込みに関する合併症への対処 P241~248
103. 大森裕也. ICD 治療と看護 : ICD 治療の合併症管理. 看護技術 51 巻 2 号 p116-119
104. 大森裕也. 循環器内科学. 第 6 章 不整脈. 13. ペースメーカー・ICD. P179-182 (シュプリンガー・ジャパン)
105. 田上素子, 新田隆. 内科医に求められる他科の知識 心房細動. 内科. 2014;114(6):939-942
106. 高橋 賢一朗, 新田 隆. 心臓手術後に出現する心房細動の治療戦略. 臨床医のための循環器診療 No.21. Aug 2014